

## 第83回 西沢溪谷ハイキング

礒川 賢  
事務局

ハイキングのお知らせにあった「夏は涼しい溪谷歩きに限ります」という幹事の礒部さんの言葉に誘われて、無謀にも？ ハイキングに初参加させていただきました。

私にとっての山行きは 40 代の頃に家族と一緒に登った高尾山や筑波山以来のことで、体力、体形とも大きく変化しており、歩き続けることができるだろうか、他の人に迷惑を掛けしないよう頑張らねばという不安でいっぱいでした。また、装備には何を準備すればよいのやらと、東塗商だよりの同好会ニュースの写真やショップの店員さんのアドバイスを参考にザック、靴、トレッキングポールなど取り急ぎ買い揃え、その日を心待ちにしていました。

さて、当日 8 月 27 日(日)は午前 8 時 50 分に JR 中央線塩山駅に集合です。塩山駅は海拔 400m 程度の甲府盆地にあり、天気も良く、気温も高いため、自然と汗がにじんできます。

今回の参加者は幹事の礒部さん、若林さん、石井さん、そして大井さん、乾さん、山本さん、原さんの奥様、私の 8 名です。集合場所に行くと、石井さん以外は皆さん集まっており、西沢溪谷行きバス停の前で歓談されていました。石井さんはというと、どうやら集合時間を勘違いされたらしく、8 時 53 分着の特急で到着です。すでにご存知のとおり、ハイキング同好会には遅刻課徴金ルールがあり、遅刻か否かとの話もありましたが、バスの出発時刻には間に合い、石井さんの判定はセーフとなりました。

バスは満員で、私たちは席に座ることができましたが、終点の溪谷入口まで立ったままの乗客の方も大勢いました。バスに揺られ、60 分程度で溪谷入口です。

早速、礒部さんのカメラで集合写真を撮り、溪谷歩きのスタートです。ここは海拔 1,100m ほどで、西沢溪谷は花崗岩の岩場と青く澄んだ淵を連ね、ダイナミックな溪谷美で、とりわけ溪谷最大の七ツ釜五段の滝は日本の滝百選にも選定される名瀑だとのこと。残暑にもかかわらず風も涼しく、快適な溪谷歩きに期待に胸が膨らみます。

西沢溪谷入口バス停から車道を進み、トイレのあるナレイ沢広場にある山の神の御社でハイキングの無事をお参りし、ここから本格的なハイキングコースに入りました。しばらく行くと結構長い「二俣吊り橋」に出ます。ぐらぐら揺れてスリル満点！ 壮大な緑に囲まれ、気分は爽快です。ここから、溪流沿いに良く整備された登山道を行き、木製の階段を上がると、その途中から「大久保の滝」が見えてきます。さらに階段を登り、鎖の手すりが付いた登山道を進むと、「滝見台」と呼ばれるビューポイントです。ここから「三重の滝」が良く見えます。溪流は青く澄んで美しく、谷側が切り立った登山道をさらに進むと文杖橋に出ます。急斜面を上がると、「七ツ釜五段の滝」が見えてきます。ここから長い階段を上り詰めると西沢溪谷終点に到着。海拔 1,400m ほどのところで、最後の登りで一気に登り切ったという感じです。

このように書いていると、余裕をもって歩いているようですが、実際のところは、すでに私は皆さんからかなり遅れ気味で、全身汗びっしょりです。沢沿いの道は濡れている事もあり、転ばないようにと足元ばかり見て、周りの景色など堪能する余裕もなく、唯一、滝壺が深く、コバ

ルトブルーに染まっていたことが強く印象に残っただけでした。ただ、私の後ろからは大井さんが私に合わせてゆっくりとしっかりサポートしていただき、なんとかここまでたどり着くことができました。本当にありがとうございました。

西沢溪谷終点からは昭和時代に使われていた「旧森林軌道(幅 2m 程ある平坦な道。但し、左側は崖)」を緩やかに下って下山です。途中の大展望台で昼食となりました。大展望台では、若い人たちが果物や飲み物を準備していて、なにやら売店でも開くのかなと思ったのですが、これは勘違い、トレッキングの大会があったようで、休憩地点の準備をしていたようです。

石井さんからは差し入れの冷たい缶ビールをいただき、磯部さんのかの有名な温かいブレンド紅茶を味わいながら、各自手弁当を楽しみました。ご馳走様でした。

上着を着替え、さあ出発。森林浴の旧森林道軌道をゆっくりと下って、スタート地点のナレイ沢広場に戻りました。昼食休憩を含め、約3時間半のコースでした。

私のペースに合わせていただいたため、帰りに予定していたバスの出発時間に間に合わず、申し訳ないと思っていたのですが、磯部さんのご準備がよく、下山途中でタクシーを呼んでいただいていたので、スムーズに塩山駅に戻ることができました。

そして、塩山駅から JR に乗り、相模湖駅で下車し、打ち上げは恒例の「かどや」です。冷えた生ビールで乾杯し、楽しく歓談させていただきました。

今回、初めて参加させていただきましたが、自然の美しさとハイキング同好会の皆さんのやさしさに感動した一日でした。また参加させてください。